

2026 年 9 月 1 日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営®」コラム第 118 回

＜経営・イノベーションの創出＞

日々刻々と変化する時代環境に於いて企業が生き残り、さらに成長・発展の道を歩み続けることは並大抵のことではありません。経営の王道を「変化に学び、変化に対応し続けること」とする経営者は多く、大きな組織を目指さなくても、世の中の変化を理解せずに企業が生き残ることは困難でしょう。

コンビニエンスストア（セブンイレブン）を米国から国内に持ち込み、日本の風土に定着・発展の道を拓き、今年の 5 月に 93 歳で逝去された鈴木敏文氏は、創業当初からの経営姿勢を「顧客視点に基づく変化対応」とし、「単品管理」を導入するなど業務変革を徹底・継続し、システム化にも先鞭をつけ、コンビニ業界のビジネス・モデルにもなりました。

製造業の場合、進化が著しい生成 AI（人工知能）を、経営の重要課題である Q（品質）、C（コスト）、D（納期）の問題解決に活用し、品質を上げ、価格を下げ、納期を守れる、生産技術の高度化を目指している企業が最近増加しています。このように AI がもたらす知の爆発は、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しつつ経営の変革に大きな影響を及ぼしています。

一方で、社内・外の新鮮な生（なま）情報（想い、ニーズ、信頼関係、悩み等）は、ビジョンの設定や戦略的な意思決定等には欠かせません。環境変化が加速する時代を取り込むためには、人の感情や五感・直感などによる感覚知と、AI のビッグデータをベースとする論理知との新結合を構想し、開かれた心を基軸としながら「経営・イノベーション」を創出することだと思われます。

＜経営者に最重要な開かれた心＞

とくに重要なのは経営者の姿勢であり、経営者の開かれた心だと感じる。

経営者が他の従業員と決定的に異なるところは、戦略的レベルにおける決断者だという点にある。決断をしない経営者は経営者とはいえない。だから事に当たってたえず意思決定を迫られ、決断を求められる。～途中略～ それは記述のように開かれた心であり、人の話をきく耳である。アドバイスを受け入れる柔軟性であり、人の知恵を活用する力である。これがあれば、人材の少なさをカバーして仕事を起こし、経営を発展させる可能性がたえず生まれる。

— 出典：「中小企業は遊撃する」相川 直之 著—